

平成23年11月9日

私たちは区立幼稚園適正配置実施計画に対し、以下の説明を求めます。

1. 意見交換会のあり方

- ① 区報、HPにて練馬区全体に広報し、保護者だけでなく地域住民にも広く開かれた意見交換会の開催が継続して行われることを求める。またその意見をもとに、実施計画案の見直しを求める。
- ② 今日を含め、今後の意見交換会の議事録の作成と、議事録の一般公開を求める。

2. 閉園予定となる園の選定に関して

- ① 町(丁目)別の在園児童数、および町(丁目)別・年齢別の幼児数の資料の提供を求める。
- ② 充員率ではなく、過去10年の園児数の調査とその資料の提供を求める。
- ③ さくら幼稚園の土地について、都住宅局との契約に「平成30年まで区立幼稚園としての使用条件がある」ということはどういうことか、伺いたい。
- ④ 都からは公共性の高い施設への転用利用を認めているという回答がなされているが、閉園選定理由の中で、区の所有権を重要視する理由は何か、伺いたい。
- ⑤ 跡地に、都が認めないと予想される施設も検討することを視野にいれているのか、見解を伺いたい。

3. 練馬区立幼稚園に関する過去の経緯と、その将来像について

- ① 閉園説明会で話された「区立幼稚園は3年保育を行わない」とする、私立幼稚園との協定とは何か、具体的な内容の開示を求める。また「光が丘以外の他の地域に区立幼稚園を作らない」など、他にも私立幼稚園と結んだ協定、約束事、取り決め等が存在するのか、その内容もあわせて伺いたい。
- ② 「3歳児保育の実施について今後の研究課題とする」と、平成17年度の区の基本方針にはあったが、その後どのような検討がなされてきたのかお聞きしたい。
- ③ 園児数がH17年度を境に園児数が減少に転じたのは少子化ではなく、社会変化によるものと考えられている。これについて、区は区民の要望に応じた区立幼稚園の保育内容の変更検討を行ってきたのか？それについてどのような具体的な取り組みをしてきたのか教えてほしい。
- ④ 国の定める子ども園のモデル園的存在として区立幼稚園を運営していくなら、将来は区立幼稚園の3年化を目指すと考えられるが、さくらとむらさきの教室数で、3年化は実現可能なのか？それについての見解を伺いたい。
- ⑤ 今後の区立幼稚園のあり方「特別支援教育の推進」「幼小連携に係る指導的役割」「幼保の連携と一体化」「子育て支援活動の充実」「私立幼稚園との連携」について、ひとつの園においてすべての役割を同時に推進していくのか、役割を分担して一部を果たすのか、どのような議論が行われ、どのような結論が出たのかお聞かせ願いたい。
- ⑥ 平成18年度から区立幼稚園の値上げがあった。また私立幼稚園の補助金制度についてもあわせて伺いたい。これによって区立幼稚園の園児数が急激に減ったと考えられるのではないかと？それについてどのようにお考えか？
- ⑦ 区立学校適正配置第二次実施計画ではなく、区立幼稚園適正配置実施計画とした違いは何か？小学校では統合新校をつくり、新しく生まれ変わった。幼稚園は閉園で、その計画の違いは何か？詳しく説明していただきたい。

- ⑧ 平成23年8月19日付けで、東京都市計画地区計画 光が丘地区地区計画の都市計画決定が行われた。「この地区計画の制定が遅れたために、幼稚園の閉園についての計画の発表がこの時期になってしまったことをお詫びする」と説明会で話されたと記憶している。しかし、都市計画の見直しに関する質問の回答の中で、「今回の地区計画への移行は、学校跡施設活用の他に、幼稚園の廃止など具体的な施設転用の計画があつて行うものではありません。」とある。これは相反する内容だと理解するが、納得のいく説明をしていただきたい。
- ⑨ 平成22年の施設白書には区立幼稚園5園の1年間の経費が4億8600万円と記載されている。そのうち、人件費が4億200万(1園あたり8000万)。光熱費などの維持管理費が4100万、運営経費が4300万。保育料収入が4000万となっている。区立幼稚園の子どもにお金がかかりすぎているのではなく、人件費がその大半を占めている実態がある。人件費削減が閉園の目的・理由なのか、ご説明いただきたい。
- ⑩ 幼稚園を半分にするとする事は、単純に考えて園児数が倍、障害児の数も倍になる。そういった中で障害児枠を今まで通り設けられるのか疑問だ。ノーマラーゼーションの考えが一般化しつつある時代に逆行する事にはならないか、お答えいただきたい。